

海の冒険シリーズ② 「若狭湾 ^{うみ}海湖の自然学校」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
16	29	16	16 (福井5・愛知3・京都2・大阪2・奈良2 滋賀1・東京1)

2. 事業内容 (概要)

◆ねらい

- ・長期宿泊体験を通して、仲間の協調性を養うと共に、活動意欲を向上させる。
- ・自然に直接触れ合う活動を多く取り入れることにより、遊び心を刺激し、前向きに挑戦する姿を育てると共に、自然環境に対する畏敬の念を育てると共に、自然環境に対する畏敬の念を育て、郷土の自然に誇りを持たせる。
- ・海・湖を様々な角度から体感することを通して、広い視野を持った豊かな人間性を育てる。
- ・当施設のフィールドを広く工夫活用し、一般利用団体にも広く普及することを目指す。

◆期日・期間

平成26年8月17日(日)～8月23日(土) <6泊7日>

◆後援・協力団体

共催：総合型地域スポーツクラブわかさ 福井県里山里海湖研究所 福井県立三方青年の家
 協力：美浜町教育委員会 若狭町教育委員会
 後援：福井・岐阜・愛知・滋賀・京都各府県教育委員会

◆参加者分析

- ・地元福井をはじめ、関東・北陸・関西と広範囲から29名の応募があった。
- ・事業の内容を考慮し、年齢・性別のバランスを考慮した上で参加者を抽選した。
- ・申込書類に作文を課したことで、活動意欲の高い応募者が集まった。

◆企画のポイント

月 日	内 容	宿泊場所
8月17日(日)	始まりの式 オリエンテーション、仲間作り①	若狭湾青少年自然の家
18日(月)	シーカヤック練習と海の学習 仲間作り②	若狭湾青少年自然の家
19日(火)	三方五湖探索と湖・里の学習 (自転車 30km)	県立三方青年の家
20日(水)	シーカヤックで湖を探検 (10km)、サンセットハイク	美浜北小学校(テント泊)
21日(木)	シーカヤックで海を探検① (15km)	岬小学校(体育館泊)
22日(金)	シーカヤックで海を探検② (12km)	若狭湾青少年自然の家
23日(土)	ふりかえりの梅丈岳登山 終わりの式	—

- ・「海」を中心に、アクティブな活動にチャレンジさせられるようなプログラムを準備した。
- ・7日間の指導を一貫したものとするため、活動のテーマを「自然のまなび人」と題して、海のダイナミックさ・すばらしさを十分に感じられるようにプログラムを構成した。

◆運営のポイント

- ・共催、協力機関を始めとした多くの機関との連携に加え、協同した「あたらしい公共」運営委員や地元職員の個人的なネットワークを活かして企画立案を行った。
- ・長期移動型のキャンプとなることから、参加者のチームビルドに十分な時間をかけることで参加者の心理的な負担の軽減に努めた。
- ・日々のふりかえりの時間を十分にとり、活動目標に継続性をもたせることで、参加者の活動意欲を段階的に向上させた。
- ・海、湖、山での活動を立体的に組み合わせる段階を踏んで活動フィールドを広げていくこと

で、理解しやすい内容構成とした。

- ・ ブログ形式でその日の内容を毎日発信した。子供の様子が把握できることで保護者からは好評を得た。また、コメント欄を通じて保護者の率直な声を入手することもできた。

◆安全管理のポイント

- ・ 関係機関との連携を密にし、常に最新の情報を入手することで、安全面の配慮をはかった。
- ・ 海、湖の活動では、命に関わる事故・けがが十分考えられるため、経験を十分に積んでいる専門家に指導・助言いただき、的確な状況判断と参加者の安全管理につとめた。また、海陸ともに十分な監視・搬送のバックアップ体制を敷き、万が一の事態に備えた。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	88%	12%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	94%	6%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	57%	25%	18%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

- ・ 協力するということを強く感じた。
- ・ 達成感が大きい。
- ・ ゆとりの時間が少なかった。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・ 従来の事業から内容を刷新したが、地域の人的、物的リソースをフル活用して実施することができた。様々な機関との連携が本事業に限らず、波及効果をもたらしている。
- ・ 共催団体より講師・スタッフを派遣していただいたことで安全面・学習面で広がりを持つ事ができた。里山里海湖研究所の研究者による講義では端的に湖の特長を掴む事ができ大変有意義であった。また、自転車・湖でのカヤックにおける三方青年の家の助力で安全管理面でも万全の体制を取る事ができた。美浜・若狭両町の教育委員会の協力を始め、渉外面で総合型地域スポーツクラブわかさのお世話になった。様々な機関と連携を取らせていただくことで事業が成功できた事に深く謝意を表す。
- ・ 天候に左右される野外活動の中で、自然に抗わず、ありのままを受け入れていく事で、自然に対する畏敬の念を育む事ができた。また、様々な地域から様々な参加者が参集したが、それぞれの立場・視点を尊重しながら集団形成をすることができた。
- ・ ボランティアが前・後泊を含め途中の入れ替えが無かったので、一貫して事業に関わる事ができたことは参加者の心理面にとっても良い影響があった。事前・事後のボランティア研修も実施できた事で、参加ボランティアの資質向上を図る事もできた。
- ・ 今回のプログラムの一部を独自に実施して行きたいという共催団体の非公式な意向がある。

(2) 課題

- ・ 初めての試みで実施細案にも様々な不備があったにもかかわらず、スタッフの臨機応変な対応で大きな障害無く事業を完遂する事ができた。食事内容や提供の形式、生活面でのゆとりの設定、持参物・準備物の案内など、様々な改善点があげられたが事後検証をしっかりと行い、次年度以降のプログラムをより良いものに改善していきたい。



チームビルド



夜のふりかえり



湖畔を快走



里山里湖研究所での講義



道中で取材も受けました



湖の最奥部にて



借りた自転車は綺麗に



三方青年の家へ移動



カヤック出発前



ハス川から漕ぎ出して



最初の三方湖へ



水路を抜けて



もうすぐ最後の湖



美浜北小でテント泊



海に漕ぎ出す



常神半島をまわる



休憩の浜で



昼食をとって



高さ8mからの飛び込みに



チャレンジ



洞窟も探検



もうすぐ今日のゴール



岬小学校に到着



緊急ミーティング



最高の夕日



早朝より漕ぎ出す



順調に最後の航程



もうすぐ…



海の道を漕破！！



やったー！！



最後の登山に出発



山頂までもうすぐ



7日間のすべてを一望



最後のふりかえり



記念撮影



同窓会で会おう！！